



## 平成 27 年度 バックエンド部会賞 受賞者

### 功績賞〔1名〕

増田 純男 殿（原子力安全研究協会）

受賞理由：

わが国の地層処分に係る技術基盤の嚆矢ともいえる「高レベル放射性廃棄物地層処分研究開発の技術報告書—平成3年度—」や「わが国における高レベル放射性廃棄物地層処分の技術的信頼性—地層処分研究開発第2次取りまとめ—」の作成・公開に主体的かつ指導的役割を果たした。

これらの成果は、その後のわが国の高レベル放射性廃棄物地層処分事業の推進に不可欠な技術基盤となったほか、TRU 廃棄物の地層処分研究開発等に対しても基本的な方法論や評価基盤等を提供することとなった。さらに、最終処分法制定に向けた技術的根拠ともなるなど、その波及効果はきわめて大きい。

### 業績賞〔1名〕

竹内 光男 殿（原子力発電環境整備機構）

受賞理由：

台湾電力公司主催のテクニカル・ワークショップ（WS）における日本側の専門家チームの取りまとめを行い、台湾-日本側との意見交換を実施した。WSでは、台湾-日本における高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する技術的な取り組み状況を確認し、今後の対応などを議論した。

また、第5回東アジア放射性廃棄物管理フォーラム（EAFORM2015）では、日本側のEAFORM小委員会委員長として貢献し、本フォーラム開催に向けたプログラム準備、台湾側との調整等、多大な努力の基に本フォーラムを成功裡に導いた。

### 奨励賞〔1名〕

邊見 光 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：

研究論文「花崗閃緑岩，凝灰質砂岩試験片に対するヨウ素，スズの分配係数」は，分配係数が小さく実験的な評価が困難なヨウ素およびスズに対して，分配係数取得を試みた内容となっており，チャレンジングなテーマでの研究の試み，および得られたデータに対して高く評価できる。

### 優秀講演賞〔2名〕

岩田 孟 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：

2015年春の年会の口頭発表 B19「雰囲気制御下での Nb(V) の溶解度測定」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。

柴田 真仁 殿（太平洋コンサルタント）

受賞理由：

2015年秋の大会の口頭発表 H24「硝酸アンモニウム溶液を用いたセメント硬化体の溶脱試験の検討；(2) 混合セメント硬化体の溶脱現象の評価」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。



## ポスター賞〔2名〕

松原 竜太 殿(東海大学)

受賞理由:

第31回バックエンド夏期セミナー(2015年8月)ポスターセッションの発表 po01「系のギブスエネルギー変化を用いたガラス固化体溶解速度評価の試み」についての評価結果による。

西尾 光 殿(原子力発電環境整備機構)

受賞理由:

第31回バックエンド夏期セミナー(2015年8月)ポスターセッションの発表 po09「処分地選定のための地質環境調査技術の実証研究—沿岸域堆積軟岩地点における地質構造モデルの構築—」についての評価結果による。

## 論文賞〔1編〕

笹本 広 殿(日本原子力研究開発機構)、James Wilson 殿(クインテッサ)、佐藤 努 殿(北海道大学)

受賞理由:

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.20-2(2013.12)に掲載の論文「鉄との相互作用による緩衝材への変質影響評価:影響要因に関する解析的検討」について、「“論文賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

## 功労賞〔1名〕

細谷 真一 殿(ダイヤコンサルタント)

受賞理由:

2009年出版小委員会の委員に就任した後、2015年度末までバックエンド部会誌「原子力バックエンド研究」の「編集長」として出版小委員会に委員として在任、原稿受付後の著者との連絡、査読者との連絡、原稿の工程管理、原稿のレイアウト確認など、部会誌にとって極めて重要な役割を担ってきた。

この6年間、部会誌が途切れることなく情報を発信し得たことに対する貢献が大変大きい。



## 平成 26 年度 バックエンド部会賞 受賞者

功績賞〔1名〕 該当者なし

業績賞〔2名〕 該当者なし

奨励賞〔3名〕 該当者なし

優秀講演賞〔3名〕

桐島 陽 殿（東北大学）

受賞理由：2014年春の年会の口頭発表 H14「福島原発事故で発生した廃棄物の合理的な処理・処分システム構築に向けた基盤研究；(11)燃料デブリ中のアクチノイドの海水系における挙動」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。

中田 弘太郎 殿（電力中央研究所）

受賞理由：2014年秋の大会の口頭発表 F50「塩化物イオン同位体を利用した地下水流動・核種移行安定性に関する研究」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。

笹川 剛 殿（東北大学）

受賞理由：第30回「バックエンド」夏期セミナー（2014年8月）ポスターセッションの発表 po03「処分場周辺におけるケイ酸析出速度の pH 依存性」についての評価結果による。

論文賞〔1編〕

前田 敏克 殿、渡辺 幸一 殿、大森 弘幸 殿、坂巻 景子 殿（日本原子力研究開発機構）、稲垣 八穂広 殿、出光 一哉 殿（九州大学）

受賞理由：部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.21-2(2015.1)に掲載の論文「カルシウムイオンや金属鉄がガラス固化体の溶解／変質挙動に及ぼす影響」について、「論文賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。



## 平成 25 年度 バックエンド部会賞 受賞者

### 功績賞〔1名〕

田中 知 殿（東京大学）

受賞理由：

- ・放射性廃棄物処分関係の研究分野において、長年にわたり先進的な研究成果を国内外に発信し、顕著な業績が評価される。
- ・日本原子力学会会長、同学会放射性廃棄物部会（現バックエンド部会）部会長、原子力委員会等の国や研究機関委員会で主査要職を歴任し、各課題審議を主導されている。
- ・東京大学において、放射性廃棄物等の原子力分野で多くの優秀な人材を育成し、学術・産業の両面における顕著な貢献をされている。

### 業績賞〔1名〕 該当者なし

### 奨励賞〔2名〕

澤口 拓磨 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：

- ・放射性廃棄物処分システムにおいて長期的な性能評価上重要となるベントナイトの変質について取り組んでいる。
- ・特に、試験や解析が困難とされる圧縮状態のベントナイト変質に意欲的に取り組むとともに、その溶解挙動解明への道筋が示されつつあり、今後の研究の進展が期待される。
- ・また、本研究成果はバックエンド部会誌に投稿され公開に至っており、積極的な研究成果公開の意識がうかがえる。

山口 正秋 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：

- ・喫緊の課題となっている福島第一事故後の放射性物質分布評価について、土砂移動に着目した放射性物質分布の解析手法開発に取り組んでいる。
- ・本手法は、既に観測結果と整合性をとれる分布解析結果を得られる段階にあるとともに、パラメータ検証や解析モジュールの追加によって定量性のある評価が可能となる見通しがつきつつあり、今後の研究の進展が期待される。
- ・また、本研究成果はバックエンド部会誌に投稿され公開に至っており、積極的な研究成果公開の意識がうかがえる。

### 優秀講演賞〔3名〕

斉藤 拓巳 殿（東京大学）（現・日本原子力研究開発機構）

受賞理由：2013年春の年会の口頭発表 A11「深部地下水中の腐植物質の錯生成能と化学構造」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。

千田 太詩 殿（東北大学）

受賞理由：2013年秋の大会の口頭発表 033「福島原発事故で発生した廃棄物の合理的な処理・処分システム構築に向けた基盤研究(8)高塩分冠水環境におけるカルシウムシリケート水和物の安定性に関する検討」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。

福田 達弥 殿（東京工業大学）

受賞理由：2013年秋の大会の口頭発表 P37「ガラス固化プロセス高度化研究(6)模擬高レベル廃液に含まれる主要硝酸塩の熱分解反応速度解析」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。



## 平成 24 年度 バックエンド部会賞 受賞者

### 功績賞〔1名〕

佐藤正知殿（福島工業高等専門学校）

受賞理由：

- ・ガラス固化体研究による原子力学会論文賞受賞をはじめ、粘土緩衝材の性能に関する研究など多くの論文を執筆し、バックエンド分野の研究開発に貢献している。
- ・日本原子力学会バックエンド部会部会長（平成 16 年度）を歴任するとともに、原子力委員会等の国や研究機関の委員会で主査等の要職を歴任し、各課題の審議を主導している。
- ・九州大学や北海道大学で多くの学生を指導するとともに、国際原子力人材育成イニシアティブ事業「多様な環境放射能問題に対応可能な国際的人材の機関連携による育成」において代表を務められており、現在も福島高等専門学校で復興人材育成にあたられるなど、教育面における貢献も顕著である。
- ・エネルギーに関する分かり易い書籍の執筆や、ラジオのパーソナリティーを務めるなど、啓蒙活動にも取り組まれている。

### 業績賞〔1名〕

吉田英一殿（名古屋大学）

受賞理由：放射性廃棄物の地層処分の安全評価における重要課題の 1 つである天然バリア中の物質移行挙動について、ナチュラルアナログ研究、地下研究施設における調査試験研究等を精力的に行うとともに、我が国の地質学的特徴と関連づけた考察を進めるなど、天然バリア中の物質移行挙動に関する科学的理解を進めるとともに、多くの論文と著書により、その成果を積極的に発信してきた。さらに、日本地質学会とバックエンド部会との共催セッションの設立に貢献するなど、関連する地球科学分野の学会において研究活動を広められている点も高く評価される。

### 奨励賞〔2名〕

該当者なし

### 優秀講演賞〔2名〕

山口正秋殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：原子力学会 2012 年春の年会の口頭発表「放射性物質の長期移行評価のための土砂移動解析」において、予稿、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

舘幸男殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：原子力学会 2012 年秋の大会の口頭発表「圧縮ベントナイト中の収着拡散データ取得評価手法の開発 (1)Ni の収着拡散の間隙水の pH と塩濃度依存性評価」において、予稿、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。



## 平成 23 年度 バックエンド部会賞 受賞者

### 功績賞〔1名〕

栢山 修 殿（原子力安全研究協会）

受賞理由：

- ・地層処分における性能評価に欠かせない、核種移行研究を長年にわたり進められ、国内外における核種移行研究とその議論をリードしている。
- ・日本原子力学会バックエンド部会部会長（2002年～2003年）として部会を指導するとともに、バックエンド部会誌に主要な論文を投稿した。
- ・原子力安全委員会等の国の委員会で主査等の要職を歴任し、各課題の審議を主導している。
- ・「高レベル放射性廃棄物」に関する専門家として、様々なシンポジウムや対話集会等に参画し、様々な意見を持つ方々との議論を重ねてきた。
- ・長きにわたり東北大学で教鞭を執られ、教育面においても学生の教育指導に情熱を注ぎ、多くの優れた人材を育成した。

### 業績賞〔1グループ（8名）〕

中山 真一 殿（日本原子力研究開発機構）、大越 実 殿（同機構）、島田 太郎 殿（同機構）、立花 光夫 殿（同機構）、門馬 利行 殿（同機構）、新堀 雄一 殿（東北大学）、安 俊弘 殿（カリフォルニア大学）、長崎 晋也 殿（東京大学）

受賞理由：『放射性廃棄物の工学』は、東京大学専門職大学院において刊行されている「原子力教科書」シリーズのひとつとして、放射性廃棄物の課題にこれから取り組もうとしている人々のために執筆された。本書は現在英訳作業が進められており、原子力先進国における放射性廃棄物管理に貢献することが期待されるとともに、東京大学と IAEA との協力事業の中にもその活用が位置づけられていることから、これから原子力産業が振興する東南アジアの国々の教科書として用いられる予定である。

### 奨励賞〔2名〕

尾山 洋一 殿（筑波大学）

受賞理由：原子力バックエンド研究（Vol. 18 No. 1）に掲載された研究論文「日本列島の非火山地域における深層地下水水質と地質との関係について」は、既存の地下水データベースを用い、日本全国にわたる広域かつ多量のデータを地質毎に分類し、地下水の水質などの物理化学パラメータと地質との関係について統計的な解析を行ったものであり、地層処分事業のサイト選定やサイト特性調査などにとって、有用性の高い論文であると評価される。

安江 健一 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：原子力バックエンド研究（Vol. 18 No. 2）に掲載された研究論文「第四紀後期における内陸部の隆起量の推定手法：鎭川流域および土岐川流域を例に」は、地層処分事業の概要調査等において使われる可能性のある隆起量調査手法について、他の研究機関では実施し得ない大規模な事例研究が行われるとともに、古環境の推定技術に関するいくつかの新たな知見も加えられ、調査手法の信頼性向上に貢献する検討が示されていると評価される。

### 優秀講演賞〔1名〕

小林 一三 殿（鹿島建設）

受賞理由：原子力学会 2011 年秋の大会口頭発表 B32「緩衝材の再冠水挙動評価（2）ベントナイト系人工バリア長期性能の不確実性軽減のための施工技術の高度化」において、予稿論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。



## 平成 22 年度 バックエンド部会賞 受賞者

功績賞〔該当者無し〕

業績賞〔1名〕

北海道大学大学院 工学研究院エネルギー環境システム部門 原子力環境材料学研究室 殿

受賞理由：当該研究室は、「放射性廃棄物地層処分に関する情報交換会」を長年継続して主催して来られ、多岐に渡る原子力バックエンド分野研究の活性化に大きく貢献していると高く評価される。同情報交換会でのプロの研究者の真剣な議論は、学生にとって貴重な経験となり、将来、原子力バックエンド研究を担う学生の教育の場としても大きな貢献をもたらしたと評価される。

奨励賞〔2名〕

玉村 修司 殿（幌延地圏環境研究所）

受賞理由：原子力バックエンド研究（Vol. 17, No. 2）に掲載された総説「Loading Capacity (LC) 法を主とした地下水中の溶存有機物と放射性核種との錯形成能評価」は、核種の地下水移行促進および遅延の検討において重要な有機物の寄与について、錯生成とそのモデルの観点から既往の成果をレビューし、その内容について著者らの考え方を加えており、有機物影響の研究に取り組む者の一助となるものと評価される。

優秀講演賞〔2名〕

奥村 啓介 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：原子力学会 2010 年春の年会の口頭発表「高レベル放射性廃液中の難分析長寿命核種のインベントリ評価に関する研究；(2)長寿命核種インベントリ評価のための新しいデータおよびコードの開発整備」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

高橋 宏明 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：原子力学会 2010 年秋の大会の口頭発表「圧縮ベントナイト中の核種移行評価手法の高度化開発；(5)X線ナノCTによる圧縮ベントナイトの内部微細構造解析」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。



## 平成 21 年度 バックエンド部会賞 受賞者

### 功績賞〔1名〕

古屋 廣高 殿（九州大学名誉教授）

受賞理由：高レベル放射性廃棄物の処理・処分法の確立に尽力され、特に、ガラス固化体の性能評価、各種障壁材の特性評価に関して多くの有用な知見を与えられた。これらの成果は国の内外で高く評価されている。また、教育面においても学生の教育指導に情熱を注がれ、多くの優れた人材を育成された。

### 業績賞〔1名〕

長尾 誠也 殿（金沢大学）

受賞理由：放射性廃棄物の地層処分の安全評価における検討課題の1つである有機コロイドの特徴とその錯形成能について、国内の地下水に含まれる腐植物質の特性とアクチノイドの移行に及ぼす影響評価を行い、腐植物質の分子サイズ分布が1つの指標となり得ることを提示した。

### 奨励賞〔2名〕

飯田 芳久 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：原子力バックエンド研究（Vol. 15, No. 2）に掲載された研究は、還元的な環境における Se の吸着挙動への硝酸塩および塩水の影響を調べたものである。丹念な調査と、精緻な試験、適切な論理展開と考察から得られた結論は、吸着機構解明までは至らないものの重要な基礎情報を与えたものであり、高く評価される。

江橋 健 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：原子力バックエンド研究（Vol. 15, No. 2）に掲載された論文は、包括的感度解析手法によって高レベル放射性廃棄物処分の性能評価パラメータの安全裕度を評価するための考え方について提案するもので、頑健なバリアの構築やシナリオ解析の方向性を示唆しており、今後の基盤情報として評価される。

### 優秀講演賞〔3名〕

島田太郎（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：原子力学会 2009 年春の年会の口頭発表「JPDR 解体廃棄物を対象としたプラズマ切断試験；(1) 放射性粉じん飛散率の評価」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

大江俊昭（東海大学）

受賞理由：原子力学会 2009 年秋の大会の口頭発表「圧縮ベントナイト間隙水の物理化学特性；浸透圧測定による間隙水の状態評価」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

平野史生（北海道大学）

受賞理由：原子力学会 2009 年秋の大会の口頭発表「様々なプルトニウム同位体組成比を持つ MOX 燃料の利用がハル・エンドピース圧縮廃棄体の地層処分に与える影響」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。





## 平成 20 年度 バックエンド部会賞 受賞者

### 功績賞〔1名〕

石崎 寛治郎 殿（株式会社太平洋コンサルタント）

受賞理由：長年にわたり放射性廃棄物処理処分にかかわるセメント・コンクリート技術分野における研究・開発の推進に大いに貢献し、同技術分野の役割の重要性を説くとともに、国際的にも技術供与・輸出をする等、日本の技術力の高さを海外に示してきた。また、研究・開発業務を通じた人材の育成にも注力し、現在、原子力に精通した多くの若手研究者・技術者が大いに活躍しています

### 業績賞〔該当者無し〕

### 奨励賞〔2名〕

松本 一浩 殿（検査開発株式会社）

受賞理由：原子力バックエンド研究（Vol.14, No.1）への掲載論文「X線CTスキャナによる亀裂内侵入ベントナイトの密度測定に関する適用性」は、非破壊測定によってベントナイトのき裂侵入現象の評価に加え、密度変化を定量的に把握することが可能であることを示し、従来の試験に比べ革新的であるとともに、緩衝材特性へのX線CTスキャナの適用研究のさきがけとなるものであり評価される。

須山 泰宏 殿（鹿島建設株式会社）

受賞理由：原子力バックエンド研究（Vol.15, No.1）への掲載論文「不均質な地質環境における地層処分場の止水プラグ設計方法に関する基礎的検討」は、地層処分における止水プラグの役割と設計方法を提示し、従来十分に検討されていなかった止水プラグの設計、構築に関する方向性を示すものである評価される。

### 優秀講演賞〔2名〕

藤原 健壯 殿（日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター）

受賞理由：原子力学会 2008 年春の年会の口頭発表「ベントナイト中における Ra 移行挙動に及ぼす Ca・Ba 鉱物との共沈の影響」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

桐島 陽 殿（東北大学 多元物質科学研究所）

受賞理由：原子力学会 2008 年秋の年会の口頭発表「フミン物質と金属イオンの相互作用の研究；非水滴定によるフェノール性水酸基の定量と錯生成モデルへの適用」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。



## 平成 19 年度 バックエンド部会賞 受賞者

### 功績賞〔1名〕

川上 泰 殿（原子力安全研究協会）

受賞理由：長年にわたり放射性廃棄物処理処分研究に従事するとともに、バックエンド分野における重要な委員会の委員として我が国のバックエンドの確立に大きく貢献され、国際的にも長年にわたり貢献された。

### 業績賞〔1名〕

朝野 英一 殿（原子力環境整備促進・資金管理センター）

受賞理由：高レベル放射性廃棄物地層処分用オーバーパックの最終封入部への各種の溶接法と非破壊検査法の適用性試験、及び溶接影響を考慮した封入部の構造力学的長期健全性評価モデル検討により、製作技術に基づいたオーバーパックの技術的成立性の基盤構築に大きく貢献した。

### 奨励賞〔1名〕

齋藤 宏則 殿（東海大学（現 三菱マテリアル））

受賞理由：原子力バックエンド研究（Vol. 13, No. 1）への掲載論文「超音波反射エコーを用いた地下水 3次元流向・流速測定のための安定浮遊固体トレーサの開発」により、地層処分事業における今後の地質環境調査への活用を見据えたトレーサに関する原位置での検証を含むアイデアを提供した。

### 優秀講演賞〔2名〕

青木 広臣 殿（原子力安全基盤機構）

受賞理由：原子力学会 2007 年春の年会の口頭発表「廃棄体の溶出率を考慮した余裕深度処分施設のバリア性能評価に関する一考察」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

新堀 雄一 殿（東北大学）

受賞理由：原子力学会 2007 年秋の大会の口頭発表「溶解過程を伴う浸透性変化の数学モデルの提案」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた



## 平成 18 年度 バックエンド部会賞 受賞者

功績賞〔該当者なし〕

業績賞〔1グループ〕

2000 年レポートチーム 殿（原子力機構）

受賞理由：2000 年レポート（地層処分研究開発の第 2 次取りまとめ）において、地層処分の技術的成立性を示すことにより、わが国の地層処分計画を事業段階に進めるとともに、2000 年以降における研究開発の枠組みや法体系整備などの拠り所となる科学技術的基盤を構築した。

奨励賞〔1名〕

高村 尚 殿（鹿島建設）

受賞理由：原子力バックエンド研究（Vol. 12, No. 1-2）への投稿論文「地下深部岩盤中における無線データ通信特性に関する検討」により、高レベル放射性廃棄物の地層処分に関して、ケーブル等を介することなくモニタリングデータを通信できる先駆的な技術の実用性を示した。

優秀講演賞〔3名〕

山口徹治 殿（原子力機構）

受賞理由：原子力学会 2006 年春の年会の口頭発表「圧縮ベントナイト内における Cs+ 及び Np(IV) 炭酸錯体の拡散に対するアンモニアの影響」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

中西智明 殿（神戸製鋼所）

受賞理由：原子力学会 2006 年春の年会の口頭発表「処分容器の蓋接合技術の開発(2)；遠隔操作による容器蓋の狭開先 MAG 溶接の適用」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。

大山卓也殿（原子力機構）

受賞理由：原子力学会 2006 年秋の大会の口頭発表「複雑な水理地質環境における地下水流動場を効率的にモデル化・解析するためのシステム開発」において、論文、報告、質疑応答のパフォーマンスともに高い評価を受けた。



## 平成 17 年度 バックエンド部会賞 受賞者

### 功績賞〔3名〕

山本 寛 殿（東京大学名誉教授）

受賞理由：設立20周年を迎えたバックエンド部会の母体である「放射性廃棄物研究連絡会」の立ち上げにあたり、その初代会長として貢献され、その後のバックエンド部会やこの分野におけるさまざまな活動に関し幅広くかつ顕著な貢献をされたため

鈴木 篤之 殿（原子力安全委員会，委員長代理）

受賞理由：設立20周年を迎えるバックエンド部会の母体である「放射性廃棄物研究連絡会」の立ち上げにあたり、その諸準備の牽引役および幹事会メンバーとして貢献され、その後、今日に至るまでバックエンド部会やこの分野におけるさまざまな活動を第一線でリードされ、幅広くかつ顕著な貢献をなされたため

東 邦夫 殿（原子力安全委員）

受賞理由：設立20周年を迎えたバックエンド部会の母体である「放射性廃棄物研究連絡会」の立ち上げにあたり、その初代幹事会主査として貢献され、その後、今日に至るまでバックエンド部会やこの分野におけるさまざまな活動を第一線でリードされ、幅広くかつ顕著な貢献をされたため

### 業績賞〔1グループ（3名）〕

河村雄行 殿（東京工業大学），市川康明 殿（名古屋大学），北山一美 殿（原子力発電環境整備機構）

受賞理由：「高レベル放射性廃棄物処分」で最も重要な分野の一つであるベントナイトの長期健全性の研究に対して大きな業績があるとともに、バックエンド部会誌にも関連する論文などを数多く投稿し、掲載されたため

### 奨励賞〔1名〕

梅田 浩司 殿（日本原子力研究開発機構）

受賞理由：地層処分のサイト選定において不可欠な地下深部の高温流体等を調査する手法を、そのアプローチの有効性に関する実際の適用事例を踏まえ、提案され、高い研究成果を上げられたため。対象論文は「地下深部のマグマ・高温流体等の地球物理学的調査技術－鬼首・鳴子火山地域および紀伊半島南部地域への適用－」，バックエンド研究，Vol. 11，No. 2，2005年3月発行

### 優秀講演賞〔1名〕

白武 寿和 殿（竹中土木株式会社）

受賞理由：原子力学会2005年秋の大会の口頭発表において、論文、報告ともに全般的に高い評価を受けられ、特に質疑応答のパフォーマンスに優れていたため。対象報告は「ナチュラルアナログから推定した緩衝材の長期力学評価パラメータ」，原子力学会2005年秋の大会，L30